

付録

付録 1. 3.1 の実験の詳細

(1) 実験方法

本文 3.1 で述べた予備実験では, 大学生の男女 116 名の実験参加者が所定の web サイトにアクセスして実験に参加した. 実験用 web サイトは全 5 ページで構成されていたが, 5 ページ中 3 ページ (1, 2, 5 ページ) は実験タイトル, 回答者情報登録及び実験全体に関する注意・教示, 実験終了の通知が表示されたページであった.

実験用の第 1 ページ (3 ページ目) では, 刺激映像と質問 1 が呈示された. 刺激映像は, 必ず一回は最初から最後まで一通り視聴するようにと教示がされたが, 二回目以降は, 実験参加者の任意で視聴可能とした. 質問 1 は, 刺激映像の下部に続けて配置され, 以下の通りであった. このうち質問 1 ①では, 「1.まったく感じない 2.ほとんど感じない 3.あまり感じない 4.どちらでもない 5.やや感じる 6.かなり感じる 7.とても感じる」の 7 段階評価で回答を求めた. また質問 1 ②では, 自由記述での回答を求めた.

【質問 1 ①】映像を一通り見た後に, 男子大学生はスマホを置き忘れて立ち去ったのではないかとあなたが感じた程度を 7 段階で評価して下さい.

【質問 1 ②】上記評価の理由を記述して下さい (字数制限なし).

次に, 実験用の第 2 ページ (4 ページ目) では, 以下の質問 2 と質問 3 を呈示した. このうち質問 2 は, 「1.まったく重要でない 2.ほとんど重要でない 3.あまり重要でない 4.どちらでもない 5.やや重要である 6.かなり重要である 7.とても重要である」の 7 段階評価で回答を求めた. また質問 3 は, 経過事件の単位を分として, 数字 (整数) を回答するように求めた.

【質問 2】以下では, 人が持ち物を置き忘れたかどうかを判定する際の要因について, あなたがそれぞれをどの程度重要だと思うのかを回答して下さい.

- ①置き忘れた場所の公共性 (公共の場所か個人的な場所か)
- ②持参する物の数 (その場所に持ち込む物の数)
- ③置き忘れる物の数
- ④置き忘れる物の種類 (置き忘れる物が何か)

【質問 3】以下では, ある人が机の上にスマホを置き忘れたかどうかを, 前のページの調査で用いたような映像から判断するという状況設定で考えて下さい. ある人がスマホを操作して机に置いてから, その後スマホに触れることなく立ち去るまでの間に, どのくらいの時間が経過すれば, あなたはその人がスマホを机に置き忘れたと判断しますか. 経過時間の単位を分として, 以下に数字 (整数) を回答して下さい.

(2) 実験結果

まず, 質問 1 ①については, 回答の評定平均値は 5.09, 標準偏差は 1.69 であった. また, ②について回答の多かった事項とその回答者が占める割合は表 3 の通りであった. この表からわかるように, 操作後経過時間, 放置物体個数, 放置物体の種類, 場所の属性が上位 3 つを占めており, これらのいずれかを挙げた回答者の割合は全体の 76.7% に及んだ.

表 3 自由記述における主な事項とその割合

操作後経過時間	24.4%
放置物体個数	24.2%
放置物体の種類	21.6%
状況推察	15.7%
場所の属性	3.7%
その他	10.4%

質問 3 については, 回答した時間とその人数の分布は図 5 の通りであった.

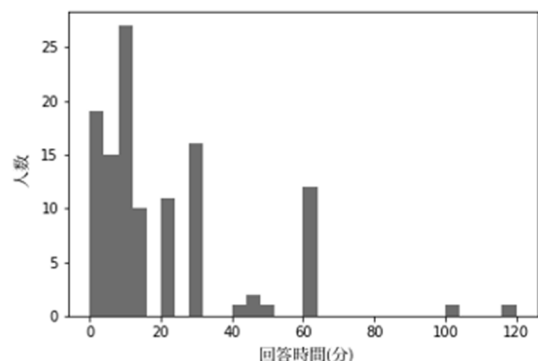


図 5 操作後経過時間に関する回答の分布

上の分布における平均値は 20.22 分, 標準偏差は 21.36, 中央値と最頻値はそれぞれともに 10 分であった.

付録 2. 3.2 の実験の詳細

本文 3.2 の実験では、実験参加者は所定の web サイトにアクセスして実験に参加した。実験用 web サイトは全 10 ページで構成されていたが、10 ページ中 3 ページ (1, 2, 10 ページ) は実験タイトル、回答者情報登録及び実験全体に関する注意・教示、実験終了の通知が表示されたページであった。

実験で使用した刺激映像は、練習試行用のものと合わせて全部で 21 本であった。但し、本論文の研究のための刺激映像は 16 本であり、その内容は本文表 1 の通りであった。

実験参加者は大学生の男女 243 人で、これを 50～60 人程度の 4 グループに分け、各グループに 6 本の映像を割り当てた。ここで、6 本の内 1 本は練習用映像であり、この映像は全グループで共通のものを用了。残りの 5 本は、グループ間で異なるものを使用した。その内 1 本は本論文の研究とは別の研究のための映像であった。したがって、本研究のための刺激映像としては、各グルー

プに 4 本ずつの提示であった。練習用映像以外の映像は、各実験参加者に対してランダムな順で提示した。

映像評価実験用の各ページ (3～8 ページ目。但し、3 ページ目は練習試行用で固定) では、それぞれ刺激映像と質問が対となって呈示された。各刺激映像は、必ず一回は最初から最後まで一通り視聴するようにと教示がされたが、二回目以降は、実験参加者の任意で視聴可能とした。質問は、刺激映像の下部に続けて配置され、以下の通りであった。質問には「1.まったく感じない 2.ほとんど感じない 3.あまり感じない 4.どちらでもない 5.やや感じる 6.かなり感じる 7.とても感じる」の 7 段階評価で回答を求めた。

【質問】映像を一通り見た後に、男子大学生はスマホを置き忘れて立ち去ったのではないかとあなたが感じた程度を 7 段階で評価して下さい。

また、9 ページ目は、本論文の研究とは別の研究のための質問が提示されていた。